（別紙様式４）

令和6年9月27日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
姫路医療専門学校	2018/3/26	小川 恭一	〒　670-0927 （住所）　兵庫県姫路市駅前町27番2 （電話）　079-226-8115
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人神戸滋慶学園	1992/1/9	理事長　田仲 豊徳	〒　650-0001 （住所）　兵庫県神戸市中央区加納町2丁目5番1号 （電話）　078-221-8026

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	作業療法士科	令和 2(2020)年度	－	令和 3(2021)年度

学科の目的	豊かな人間性・コミュニケーション力・トータルマネジメント力を身につけた、病院はもちろんのこと、地域でも活躍することができる作業療法士を養成します。地域移行が進む中で必要とされる、医療人だけでなく地域のさまざまな方と円滑にコミュニケーションを行う能力と、多面的に対象者を捉えることができるトータルマネジメント力を身につけ、対象者が必要とする支援を実践できる豊かな人間性を身につけた作業療法士を養成します。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	多世代交流を通して、地域生活の援助や多職種連携にとって必要となる円滑なコミュニケーション力と対象者を環境も含めて多面的に捉えることができる複数の視点や広い視野を身につけます。そして、多様な対象者を支援できる豊かな人間性と知識や技術、実践力を身につけます。そして卒業時に国家資格を取得し、作業療法士として就職することで地域社会に貢献する人材を育てます。取得可能資格：作業療法士

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,375 単位時間	735 単位時間	1,200 単位時間	1,440 単位時間	－ 単位時間	－ 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
120 人	124 人	0 人	0 %	5 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 36	人
■就職希望者数 (D)	: 33	人
■就職者数 (E)	: 31	人
■地元就職者数 (F)	21	人
■就職率 (E/D)	94	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	68	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	86	%
■進学者数	0	人

■その他

－

（令和　　５年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

総合病院、リハビリテーション病院等

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：－　　受審年月：－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://www.hmc.ac.jp/gakka/ot

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	3,375 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,080 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位時間
うち必修授業時数	3,375 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,080 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	－ 単位
うち必修単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	3 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	－ 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	－ 人
計		6 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	6 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

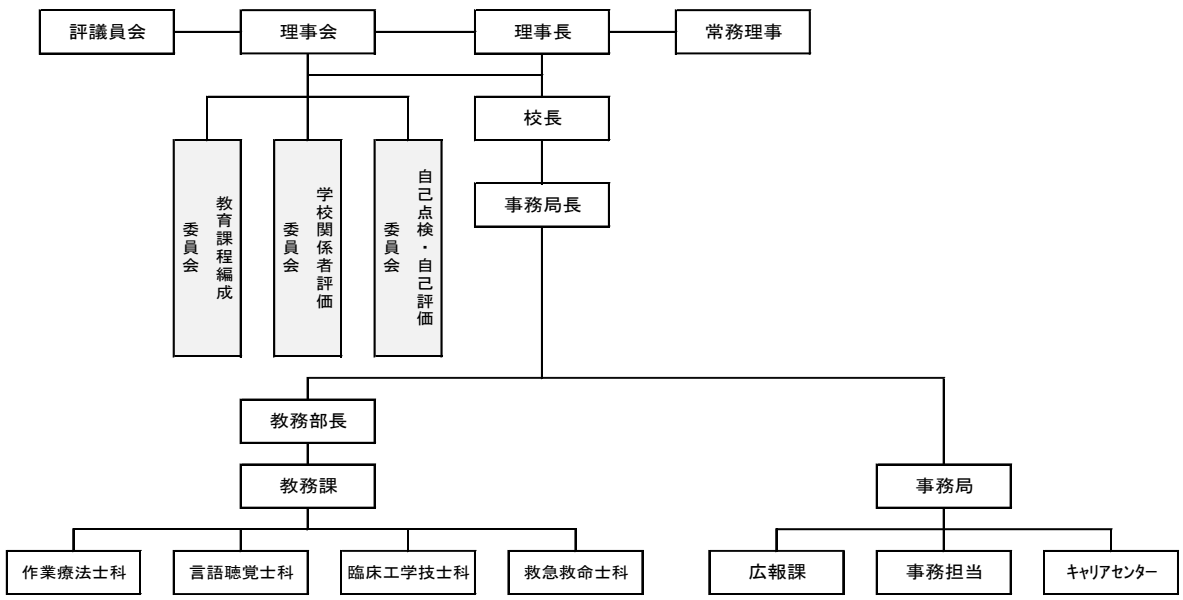
学科の養成目的（養成する職業人の将来像、必要となる知識・技術）の設定、教育目標（学生が卒業時に身につけておくべき能力）の到達のために、教育編成委員会での意見を活かし、カリキュラムを見直す。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育編成委員会は理事会のもとに設置しており、委員長は、委員会で出された意見を集約し理事会に報告している。カリキュラム変更等は、評議員会、理事会で決議し教育内容に反映している。

学校法人神戸滋慶学園
姫路医療専門学校 組織図



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
浅沼 由紀	一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
巣守 悟	医療法人仁寿会 石川病院 リハビリテーション部 室長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
西本 寛	公立神崎総合病院 ケアステーション神崎 所長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
服巻 陽子	一般社団法人兵庫県言語聴覚士会　副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
藤本 英宏	医療法人社団栄宏会 栄宏会小野病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
杉田 由美	学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学ささやま医療センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
正木 昭次	一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 参与	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
尹 成哲	地方独立行政法人加古川市民機構 加古川中央市民病院 臨床工学室 技師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
重松 武史	医療法人社団平生会　宮本クリニック	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
斎藤 満智子	学校法人神戸滋慶学園 常務理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
小川 恭一	姫路医療専門学校 校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
今在家 信司	姫路医療専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
笠原 由美子	姫路医療専門学校 事務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
今岡 康人	姫路医療専門学校 言語聴覚士科 部門長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
竹内 美保	姫路医療専門学校 作業療法士科 副学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
帯包 静香	姫路医療専門学校 言語聴覚士科 副学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
三村 佳祐	姫路医療専門学校 臨床工学技士科 副学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （6月、2月）

（開催日時（実績））
第1回 令和5年6月24日 15:00～16:30
第2回 令和6年2月24日 15:00～16:30
第1回 令和6年6月29日 13:00～14:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
委員からの助言より、学生の意欲や主体性の低下、グループワークの課題、人間関係のトラブルに対し、個々の学生に関心を持ち、面談を通じて理由を聞くこと、またリーダーシップを育成し、少人数制の指導を強化していく。
学習面では、インターネットですぐに答えを見つける傾向があり、考える過程の重要性を伝える必要がある。国家試験対策において、単なる暗記ではなく、理解を深める方法を模索していく必要がある。
さらに、動画教材の活用や、インターネットだけでは解決できない課題の設定など、新しい教育方法の導入も検討していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
本校は、業界に直結した職業人教育を行うため、業界と連携し、即戦力となる人材を育成することを教育の一つの目的としている。そのため、業界の現場(企業等)の現職の作業療法士等を講師に委嘱し授業を実施し、また業界の現場(企業等)において見学実習、臨床実習を行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
理学療法士作業療法士学校養成施設 指定規則、日本作業療法士協会「作業療法臨床実習指針」に基づき、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供する機会とする。作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるものである。臨床実習を通じて学生は認知領域（知識面）、精神運動領域（技術面）、そして情意領域（態度面）にわたる調和のとれた学習をすることが望まれる。学習成果目標として、認知領域として学校で学んだ基礎知識を再認識するとともに、臨床を通じて新しい知識や臨床的な知識を習得する。精神運動領域では直接対象者に接することによって面接・評価・治療の技術を身につける。そして、それらの土台であり支えとなる情意領域として医療専門職に恥じない言動・態度の獲得と興味や熱意を養わせることである。学習成果の評価については実習指導者報告書、実習後の振り返り、報告会、実習前後のOSCE（客観的臨床能力試験）によって認定を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
見学実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。見学実習では見学と体験を通じて作業療法士の役割と基本的態度、他職種の役割を学ぶ。また、専門職として責任のある態度や行動がとれる。	IHI播磨病院、石川病院、公立神崎総合病院、神野病院、ときわ病院他（合計23施設）

地域実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。地域実習では通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション、もしくは精神科デイケアの現場での見学と体験を通じて作業療法士の役割と基本的態度や他職種の役割を学ぶ。また、専門職種として責任のある態度や行動がとれる。	石川病院、栄宏会小野病院、土井病院、広畑センチュリー病院、介護老人保健施設サンスマイル北野他（合計14施設）
評価実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。評価実習では作業療法における初期評価を臨床現場での実習を通して体験し、また作業療法における臨床思考過程を体験し、身に付ける。	石川病院、栄宏会小野病院、公立神崎総合病院、ときわ病院、兵庫県立はりま姫路総合医療センター他（合計34施設）
総合臨床実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。総合臨床実習Ⅰでは作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験する。また、作業療法における臨床思考過程を体験し、身に付ける。	揖保川病院、ツカザキ病院、西宮協立リハビリテーション病院、姫路北病院、姫路田中病院、（合計33施設）
総合臨床実習Ⅱ	4.【校外】企業等が主催するインターンシップ等（学科が主体的に企画していないものを指す。）	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。総合臨床実習Ⅱでは作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験する。また、作業療法における臨床思考過程を体験し、身に付ける。	大久保病院、高砂西部病院、姫路北病院、姫路聖マリア病院、姫路田中病院他（合計36施設）

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
学園の定める教員研修規定において教員の授業内容、教育技法の改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的に定めている。また、教員の専門知識、技術力の向上のために、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに評価指標を定めて教員の研修計画を策定し、専門の

学会や業界の研修会に積極的に参加している。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	医療学教育研修会	連携企業等：	自治医科大学
期間：	令和5年5月1日	対象：	教員
内容	国家試験合格率100%を達成するための指導方法の習得。		
研修名：	兵庫県作業療法士会キャリアアップ研修会	連携企業等：	兵庫県作業療法士会
期間：	令和5年10月20日	対象：	教員
内容	LGBT＋αの基礎知識～作業療法の現場や養育のためにまず知っておきたいこと～		
研修名：	第57回日本作業療法学会.(沖縄)	連携企業等：	日本作業療法士協会
期間：	令和5年11月10日～11月13日	対象：	教員
内容	ポスター発表（作業療法士による触法障害者に対するオンライン支援の可能性		
研修名：	兵庫県作業療法士会中播磨ブロック研修会	連携企業等：	兵庫県作業療法士会
期間：	令和5年11月12日	対象：	教員
内容	リハ職が知っておくべき介護保険領域の福祉用具・住宅改修、及び介護ロボットの活用		
研修名：	第29回兵庫県作業療法学会	連携企業等：	兵庫県作業療法士会
期間：	令和5年12月3日	対象：	教員
内容	教育セミナー「病院と地域社会をつなぐ」座長として参加		
研修名：	兵庫県作業療法学会	連携企業等：	兵庫県作業療法士会
期間：	令和5年12月3日	対象：	教員
内容	結―ゆい―　～多様なゴールを目指して～をテーマに演題発表、教育セミナー、市民公開講座		
研修名：	第1回日本司法作業療法学会	連携企業等：	日本司法作業療法学会
期間：	令和5年12月17日	対象：	教員
内容	シンポジウム「GO-GO-OT-NETからの実践報告」シンポジストとして参加		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	FDミクロレベル（クラスマネジメント）研修Ⅰ	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和5年5月24日	対象：	教員
内容	担任の「クラスマネジメント」に共感し、クラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正ができるようになる。		
研修名：	FDミクロレベル＜クラスマネジメント＞研修Ⅱ	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和5年7月26日	対象：	教員
内容	クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。		
研修名：	国家試験対策研修会	連携企業等：	国家試験対策センター
期間：	令和5年10月31日	対象：	教員
内容	国家試験の合格率向上に繋がる情報やスキルを共有する		
研修名：	滋慶教育科学学会	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和5年12月7日	対象：	教職員
内容	グループ校による教育効果をもたらした研究内容の発表会、事例の共有		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	兵庫県作業療法士会キャリアアップ研修会	連携企業等：	兵庫県作業療法士会
期間：	令和6年10月20日	対象：	教員
内容	LGBT＋αの基礎知識～作業療法の現場や養育のためにまず知っておきたいこと～		
研修名：	第2回日本司法作業療法学会 「再生」	連携企業等：	日本司法作業療法学会
期間：	令和6年11月30日	対象：	教員

内容	基調講演、教育セミナー、口述発表等		
研修名:	兵庫県作業療法学会	連携企業等:	兵庫県作業療法士会
期間:	令和6年12月1日	対象:	教員
内容	OTの可能性～私の次のステップにむけて～をテーマに演題発表、教育セミナー、特別講演		
研修名:	第30回兵庫県作業療法学会「OTの可能性　私の次のステップに向けて」	連携企業等:	兵庫県作業療法士会
期間:	令和6年12月1日	対象:	教員
内容	教育セミナー、口述発表等		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回臨床実習指導者講習会	連携企業等:	兵庫県作業療法士会
期間:	令和6年9月21日	対象:	教員
内容	臨床実習における学生評価及び学生評価の実際について講師予定。また2日間を通してファシリテーターを担当する。		
研修名:	滋慶教育科学学会	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和6年12月5日	対象:	教職員
内容	グループ校による教育効果をもたらした研究内容の発表会、事例の共有		
研修名:	第2回臨床実習指導者講習会	連携企業等:	兵庫県作業療法士会
期間:	令和7年1月26日	対象:	教員
内容	臨床実習における学生評価及び学生評価の実際について講師予定。また2日間を通してファシリテーターを担当する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生・保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己評価・自己採点の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に生かすことを方針としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	–

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生の態度、姿勢など社会人基礎力や医療人としてのキャリア教育プログラムの成果や、国家試験合格のためのサポートの改善結果をご評価いただいた。3期目の卒業生が就職するにあたり、今後卒業生と連携した教育プログラムなどのご意見をいただき、実際に計画、運用を始めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
大塚 将史	医療法人芙翔会 姫路愛和病院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
奥見 俊美	作業療法士科3年生 保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者
瀬戸川 孝	兵庫県立松陽高等学校 元校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高校関係者
田中 種男	姫路市城巽地区 顧問	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	近隣関係者
浅沼 由紀	一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界関係者

正木 昭次	一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 参与	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	業界関係者
服巻 陽子	一般社団法人兵庫県言語聴覚士会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ））
URL： https://www.hmc.ac.jp/about/joho
公表時期： 令和6年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
学校で毎年作成している事業計画の実行方針では目標（カリキュラムの検証、中途退学防止、国家試験合格、卒業後の離職防止等）を具現化するため、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の委員の方からの意見をもとに、実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、委員会での報告、ホームページを通じて、教育活動その他学校運営に関する情報提供を行っている。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	建学の理念、校長名、所在地、連絡先、教育目標、学校の沿革
（2）各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、教科目標、教科課程、各学科のシラバス、進級・卒業の要件、資格・検定実績、卒業者数・卒業後の進路
（3）教職員	教職員数、組織図
（4）キャリア教育・実践的職業教育	教育システム、実習・実技等の取組、就職支援の取組
（5）様々な教育活動・教育環境	学年歴、学校行事の取組状況、設備紹介
（6）学生の生活支援	学生支援の取組
（7）学生納付金・修学支援	学費、学費サポート
（8）学校の財務	資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、貸借対照表、監査報告書、事業報告書、理事名簿
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、学校関係者評価委員会議事録
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ））
URL： https://www.hmc.ac.jp/about/joho
公表時期： 令和6年6月30日

授業科目等の概要

	（医療専門課程 作業療法士科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			心理学	知覚や認知、欲求や感情、学習や思考・記憶などにおける心理の過程を知り、人の内面を見る手がかりとすることができる。	1前	30	2	○			○			○	
2	○			文章表現・読解	日々の授業や臨床実習で課題となるレポートの作成に必要な文章表現や文章読解力を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
3	○			自然科学	人体の運動および動作の原理である運動学を学ぶための基礎としての力学について理解できる。	1前	15	1	○			○			○	
4	○			健康科学	専門職として業務の遂行に必要な基礎的な体力を養うとともに、作業療法に必要な体育理論を身につける。	1前	30	1		○			○		○	
5	○			医学総論	医学の歴史や医療技術の進歩、生命倫理・医療倫理等について学び、医療従事者として相応しい心構えを身につける。	1前	15	1	○			○			○	
6	○			情報処理	レポートの作成等に必要なPCの基本的なソフトであるワード、エクセルを使用し、文書や表が作成できる。また、基礎的なエクセル統計を理解できる。	1後	30	1		○		○			○	
7	○			基礎英語Ⅰ	英語を話す力、聞く力を中心とする基礎英語力を身につけ、英語でのコミュニケーションの基盤を形成できる。	1前	30	2	○			○			○	
8	○			基礎英語Ⅱ	医療の現場で必要とされる医療英語の語彙力を身につける。また、医療現場で想定される英会話の基礎知識と英語表現について理解できる。	1後	30	2	○			○			○	
9	○			国際教育	海外の医療情勢、また日本とその相違を学び、国際的な視点や幅広い視野を身につける。	2後	15	1	○			○			○	
10	○			プロフェッショナルへの道Ⅰ	社会人としての基礎力を身につけ、作業療法士を目指す仲間との良好な関係を作る。また、作業療法士としての将来像を明確にできる。	1通	60	2		○		○		○		
11	○			プロフェッショナルへの道Ⅱ	医療人としての倫理観を身につける。また、作業療法士になるためのモチベーションを維持できる。	2通	60	2		○		○		○		
12	○			プロフェッショナルへの道Ⅲ	作業療法士としてのプロフェッショナリズムを身につける。また、実習を経て作業療法士としての将来像をより明確化できる。	3通	60	2		○		○		○		
13	○			人間関係論	社会について学び理解を深める。また、社会人としてのマナーやコミュニケーションの基本を学び、幅広く円滑なコミュニケーションを図る能力の必要性について理解できる。	1前	30	2	○			○			○	

14	○			解剖生理学演習　運動系Ⅰ	運動を学ぶための基礎となる骨・関節の構造・機能について演習を通して理解できる。	1前	30	1		○		○		○		
15	○			解剖生理学演習　運動系Ⅱ	運動を学ぶための基礎となる筋肉の構造・機能について演習を通して理解できる。	1後	30	1		○		○		○		
16	○			解剖生理学演習　神経系Ⅰ	神経系（中枢神経系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1前	30	1		○		○		○		
17	○			解剖生理学演習　神経系Ⅱ	神経系（末梢神経系、感覚器系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1後	30	1		○		○		○		
18	○			解剖生理学演習　内臓系Ⅰ	内臓系（循環器系、呼吸器系、消化器系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1前	30	1		○		○		○		
19	○			解剖生理学演習　内臓系Ⅱ	内臓系（泌尿器系、内分泌系、生殖器系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1後	30	1		○		○		○		
20	○			基礎運動学	運動に関わる人体の構造、特に骨・関節・筋・神経の機能について理解できる。	1後	30	2	○			○		○		
21	○			運動学演習Ⅰ	人体の運動および動作の原理を学び、それらを多面的に理解する。また、関節の構造による運動の特徴等を理解できる。	1後	30	1		○		○			○	
22	○			運動学演習Ⅱ	運動を通して人の体の構造と機能を理解できる。また、人の運動を力学的な観点から理解できる。	2前	30	1		○		○		○		
23	○			運動学演習Ⅲ	人体の機能と運動との関係を学び、各運動に必要な生理的機能の特徴を実習を通して理解できる。	2後	30	1		○		○		○		
24	○			人間発達学	人間が生涯にわたり発達する力を持っていることを学び、人間の生涯にわたる身体的、精神的、社会的な発達について理解できる。	1前	15	1	○			○			○	
25	○			臨床心理学	臨床現場で使用される各種心理検査（知能検査、人格検査、神経心理学的検査）や心理療法について理解できる。	1後	15	1	○			○			○	
26	○			病理学	代表的な疾病の原因とそれに対する生体の反応、疾病の経過・転帰等について理解できる。	1後	15	1	○			○		○		
27	○			一般臨床医学	臨床現場で必要とされる栄養、薬理、救急救命、予防の基礎について理解できる。また、病院で多くみられる疾患の概念について理解できる。	1後	30	2	○			○		○	○	
28	○			老年医学	「老い」とは何か、老年期にみられる身体機能・精神機能の特徴、老年期に起こりやすい疾患等について理解できる。	2後	15	1	○			○			○	
29	○			精神医学	統合失調症・気分障害(躁うつ病）等を代表とする精神科疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○	

30	○			内科学	代表的な内科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2後	30	1		○		○			○	
31	○			整形外科学	代表的な整形外科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○	
32	○			神経内科学	代表的な神経内科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○	
33	○			臨床医学概論	整形外科学、神経内科学の疾患の基礎となる症候学について理解できる。	1後	30	2	○			○		○		
34	○			小児科学	代表的な小児系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2後	15	1	○			○			○	
35	○			画像診断学	脳の疾患や整形外科疾患において必要となるCTやMRI画像の読影のため、画像診断の基本的知識を身につける。	2後	15	1	○			○			○	
36	○			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	リハビリテーションの対象となる代表的な疾患や障害に対するリハビリテーション医学の基本的なアプローチの方法を理解できる。	1後	15	1	○			○			○	
37	○			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論	リハビリテーションの歴史や、理念、概念、対象、関連職種等について理解できる。	1後	15	1	○			○			○	
38	○			チーム医療論	医療機関等におけるチーム（多職種連携）のあり方を学び、医療専門職としての自覚とチームの一員としてのあり方を身につける。	1前	15	1	○			○			○	
39	○			ケアマネジメント論	自立支援、就労支援、地域包括ケアシステムについて学び、ケアマネジメントの実際について理解できる。	2後	15	1	○			○			○	
40	○			社会福祉論	社会福祉の現状を学び、リハビリテーションに関連する法律や制度について理解できる。	2前	15	1	○			○			○	
41	○			作業療法概論	作業療法の起源と歴史、定義や対象・分野、職業倫理、作業療法実施の流れ等、作業療法の全体を理解できる。	1前	30	2	○			○			○	
42	○			基礎作業学	作業療法の治療手段である作業の持つ意味や作業の捉え方に関する変遷を学び、作業活動と人との関わりや諸機能への影響等を理解できる。	2前	15	1	○			○			○	
43	○			作業学実習Ⅰ	さまざまな作業活動を通して、その心身に及ぼす影響や治療的な効果・作業療法現場での使用方法について理解できる。	1前	45	1			○		○		○	
44	○			作業学実習Ⅱ	さまざまな作業活動を通して、その心身に及ぼす影響や治療的な効果・作業療法現場での使用方法について理解できる。	1後	45	1			○	○	○		○	
45	○			研究法入門	研究法を学ぶための基礎である統計処理の基本的な知識を身につけ、その方法を理解できる。	2後	15	1	○			○			○	

46	○			作業療法研究法	実践のための科学的基盤を確立する上で重要である研究について、その基本的な考え方や方法について理解できる。また、研究テーマを選択し、研究の基本的な方法を実践することができる	3前	30	1		○		○		○		
47	○			作業療法管理学	作業療法において重要となる情報管理について、実際の医療現場におけるその基礎的な事項を学び、理解できる。	2後	30	2	○			○			○	
48	○			作業療法評価学	作業療法における評価の基本的な考え方やその種類、手順、具体的な検査測定法について理解できる。	1前	15	1	○			○			○	
49	○			作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	1前	45	1			○	○			○	
50	○			作業療法評価学実習Ⅱ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	1後	45	1			○	○		○	○	
51	○			作業療法評価学実習Ⅲ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	2前	45	1			○	○		○		
52	○			作業療法評価学実習Ⅳ	作業療法における代表的な疾患に対する一連の評価手順（医用画像の評価を含む）を実際に経験することにより身につける。	2後	45	1			○	○		○		
53	○			身体障害治療学	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	2	○			○		○		
54	○			身体障害治療学演習Ⅰ	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	1		○		○		○	○	
55	○			身体障害治療学演習Ⅱ	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。 呼吸器疾患の作業療法に関連して、喀痰等の吸引の方法について学び、人形を使って	2後	30	1		○		○			○	
56	○			高次脳機能障害治療学	代表的な高次脳機能障害に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	2	○			○		○		
57	○			高次脳機能障害治療学演習	代表的な高次脳機能障害に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について演習を通して理解できる。	2後	30	1		○		○		○		
58	○			精神障害治療学	精神障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	2	○			○		○		
59	○			精神障害治療学演習	精神障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について演習を通して理解できる。	2後	60	2		○		○		○		
60	○			発達障害治療学	発達障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	15	1	○			○			○	
61	○			発達障害治療学演習	発達障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法について、演習を通して理解できる。	2後	30	1		○		○			○	

62	○			職業関連活動学	障害を持つ人が職業につくにあたっての職業評価・援助の方法や職業支援に必要な知識を身につける。	2後	15	1	○			○			○	
63	○			老年期障害治療学	老年期における特徴等の知識を基礎として老年期に多い疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	15	1	○			○			○	
64	○			義肢装具学演習	義肢や装具の構造と機能および使用目的・方法、自助具の使用目的や作製方法について演習を通して身につける。	2後	30	1		○		○			○	
65	○			福祉住環境論演習	住宅改修や福祉用具、自助具の基礎知識、それぞれを用いた援助の方法等について理解できる。	2後	30	1		○		○			○	
66	○			日常生活活動学	日常生活活動の評価方法や指導方法を学び、基礎的な知識や実技の方法について理解できる。	1後	15	1	○			○			○	
67	○			日常生活活動学演習Ⅰ	日常生活活動の評価方法や指導方法についての基礎的な知識や実技について演習を通して身につける。	2前	30	1		○		○		○	○	
68	○			日常生活活動学演習Ⅱ	疾患別の実技の方法や指導方法等を学び、演習を通して身につける。 生活行為向上マネジメント（MTDLP）の基礎を演習を通して身につける。	2後	30	1		○		○			○	
69	○			作業療法特論	実際の臨床現場で行われている作業療法を、現場で活躍する作業療法士の教授により、演習を通して理解できる。	3前	30	1		○		○			○	
70	○			地域作業療法学	地域作業療法の必要性と現状、その実際を学び、具体的な展開方法について理解できる。	2前	30	2	○			○			○	
71	○			地域作業療法学実習Ⅰ	地域の臨床現場での体験実習を通して、一般的に必要とされるコミュニケーション能力を身につける。	1後	45	1			○		○	○	○	
72	○			地域作業療法学実習Ⅱ	地域の臨床現場での体験実習を通して、作業療法士として必要とされるコミュニケーション能力を身につける。	2前	45	1			○		○	○	○	
73	○			見学実習	臨床現場で作業療法士が実際に働く場を見学することで、作業療法に対する職業理解を深め、作業療法士になるためのモチベーションを維持できる。	1前	45	1			○		○		○	○
74	○			地域実習	デイケアや訪問作業療法を実施している事業所で作業療法士が実際に働く場を見学することで、地域で必要とされる作業療法に対する職業理解を深める。	2前	45	1			○		○		○	○
75	○			評価実習	作業療法における初期評価の一連の流れ（情報収集、検査測定の実施、評価のまとめ、作業療法計画の作成等）を臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	2後	##	4			○		○		○	○
76	○			総合臨床実習Ⅰ	作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	3前	##	9			○		○		○	○
77	○			総合臨床実習Ⅱ	作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	3前	##	9			○		○		○	○

78	○			作業療法総合演習Ⅰ	1年で学ぶ基礎医学の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	1後	30	1		○		○		○		
79	○			作業療法総合演習Ⅱ	1・2年で学ぶ基礎医学の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	2前	30	1		○		○		○		
80	○			作業療法総合演習Ⅲ	1・2年で学ぶ専門基礎分野の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	2後	30	1		○		○		○		
81	○			作業療法総合演習Ⅳ	1・2年で学ぶ専門基礎分野の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3前	30	1		○		○		○		
82	○			作業療法総合演習Ⅴ	1～3年で学ぶ専門基礎分野の知識や作業療法の専門的な知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3後	30	1		○		○		○		
83	○			作業療法総合演習Ⅵ	1～3年で学ぶ専門基礎分野の知識を基礎とした作業療法の専門的な知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3後	60	2		○		○		○		
合計					83　科目			3375 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	本校所定の課程を修了し、出席日数をみたし、試験に合格すること。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	当該年度の科目をすべて履修していなければならない。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。